

対馬におけるカナブン黒化型の記録

境 良朗

カナブン *Pseudotorynorrhina japonica* (Hope, 1841) は豊かな色彩変異が知られる種であるが、対馬産においては非常に安定しており（写真 1）、稀にやや赤味がかった個体が見られるに過ぎない（写真 2）。筆者はクロカナブンと見間違えるような黒化型を採集しているので報告する。

カナブン黒化型

1ex., 対馬市厳原町内山, 31. VII. 2019, 筆者撮影・採集 クヌギの樹液を吸汁（写真 3・4）



（写真 1）通常型



（写真 2）赤味がかった個体



（写真 3）黒化型



（写真 4）クヌギの樹液を舐める

クロカナブンは前脛節と後脛節の形態、後脛節内側の毛の色、全体的な体型などで区別できるという。ちなみに、クロカナブンの対馬における記録を筆者は把握していない。対馬にクロカナブンが分布することは白水・宮田（1976）には見当たらないが、岡島・荒谷他（2012）は分布域に対馬をあげている。本個体のようにカナブンの黒化型であった可能性はないのであろうか。

引用・参考文献

白水 隆・宮田 彬, 1976. 対馬産昆虫目録. 対馬の生物, 654. 長崎県生物学会

岡島・荒谷他, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 309. 学研

今坂正一他, 1999. 長崎県産コガネムシ主科目録, こがねむし(62): 長崎昆虫研究会